

2020.10  
No. 46



# 佐賀大学病院ニュース

患者・医療人に選ばれる病院を目指して

News & View

〒849-8501 佐賀市鍋島五丁目1番1号

TEL 0952-31-6511(代)

病院ホームページ <http://www.hospital.med.saga-u.ac.jp/>

## 新型コロナウイルス感染症の現状と対策



感染制御部 部長 青木 洋介

佐賀県での流行は収束状況にあります

2020年5月初頭に収束していた新型コロナウイルス感染症は、7月20日を境に検査陽性者数の再燃を認めました。以後1週間単位での発生状況を見ると8月9日までの1週間がピークとなり、以後陽性者数は漸減しています(図)。現時点で収束状況にあると考えても良いですが、「終息」ではありませんので、引き続き基本的な感染防止策(「標準予防策」)の遵守に努める必要があります。

ワクチンと治療薬、および予防について  
残念ながら、現時点で朗報と呼べるものを紹介することができません。コロナウイルスは、もともと治療薬もワクチンも開発することができていない「風邪のウイルス」ですので、人類の叡智を結集しても未だに特効的手段の開発に至っていません。

しかし、「社会的環境(不特定多数の人が近い距離で行き交う環境)でのマスク着用とこまめな手洗い」に代表される標準予防策(「新しい生活様式」)を遵守している限り、感染リスクを低く抑えることができます。

もし罹ったら

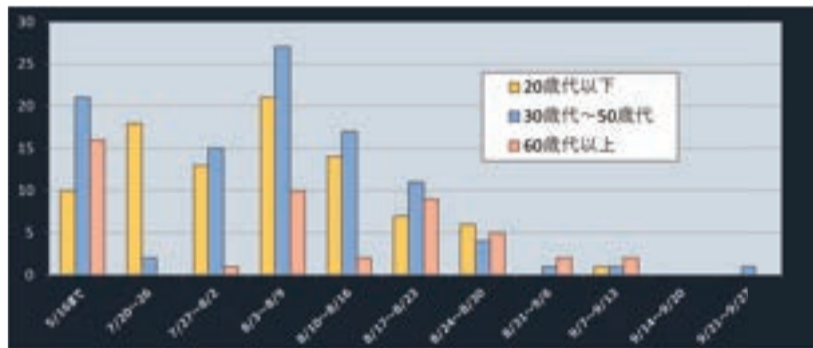
流行初期に比べ重症化する率が低下している、と見ることが出来ます。日頃からの健康維持に努めていけば、もし罹っても過度に心配することはありません。これまで陽性者は全て入院になっていましたが、今後は軽症の方であれば自宅療養が可能になる予定です。慢性疾患をお持ちの方は、これまでどおりの体調管理をなさってください。

ご参照下さい

「今日からできる!暮らしの感染対策バイブル」(主婦の友社)という本があります。看護師・感染症実地疫学専門家であり、



COVID19佐賀県内発生状況



陽性者数	47名	20名	29名	58名	33名	27名	15名	3名	4名	0名	1名
PCR件数	1781	359	415	843	535	534	568	230	252	169	128
陽性率	2.6%	5.5%	6.9%	6.9%	6.2%	5.1%	2.6%	1.3%	1.6%	0%	1.3%

国立国際医療研究センター客員研究員の堀成美さんがお書きになったものです。家庭や職場、学校などでのどのような点に注意すれば良いか、あるいは、注意する必要があるかについて専門的視点から書かれた「良書」です。お勧めの一冊です。

## 令和2年度

### 科学技術分野の文部科学大臣表彰

#### 「科学技術賞(開発部門)」受賞

馬渡正明教授(整形外科)、宮本比呂志教授(病因病態科学)、佛淵孝夫 佐賀大学名誉教授(元学長)と京セラ株式会社 野田岩男 研究員が、インプラント表面へのコーティング技術である「AG-PROTEX®」(エージー・プロテックス)を応用した世界初の抗菌性人工股関節を共同開発したことにより、令和2年度科学技術分野の文部科学大臣表彰の「科学技術賞(開発部門)」を受賞しました。

AG-PROTEXは、京セラの従来技術で優れた骨伝導性を有するハイドロキシアパタイト(HA)コーティング技術をベースに、抗菌スペクトルの広い銀を含有させた「銀HAコーティング技術」で、佐賀大学と京セラが共同開発したものであり、セメントレス人工関節の骨との界面部分に適用することにより、形成された銀HAコーティング層から銀イオンを溶出し抗菌性を発揮します。

AG-PROTEXを応用した人工股関節は、抗菌性と骨伝導性・骨固定性の両立を実現しており、国内の6,000件以上の手術で使用され、不具合なく利用されています。また、AG-PROTEXは、人工股関節以外に脊椎インプラントへの応用が進んでおり、さらに人工膝関節、人工歯根など各種のインプラントへの展開の可能性を有しています。



▲ AG-PROTEX®を応用した人工股関節

整形外科 教授 馬渡 正明  
病因病態科学 教授 宮本比呂志



▲ (左から) 馬渡正明教授、宮本比呂志教授

## 佐賀大学教育学部附属中学校生徒から応援メッセージ贈呈

佐賀大学医学部附属病院では、6月9日、佐賀大学教育学部附属中学校の生徒達から、新型コロナウイルス感染症対策に取り組み医療従事者への応援メッセージの贈呈式が行われました。同中学校の「健康づくり部」が生徒らに呼びかけ、約120人が書いたメッセージをまとめた特大ポスターを作成したもので、五反田校長及び健康づくり部3役の生徒が本院を訪問し、山下病院院長らに手渡しで贈呈しました。生徒達からのメッセージには「大変だと思いますがどうかお体にお気をつけて頑張ってください」「大変な中、私たちのために働いてくださってありがとうございます」「ごきげん!」など激励や感謝の言葉が綴られていました(写真、クローバーの部分)。生徒達との歓談の中で、山下病院院長は健康づくり部の活動内容について様々な質問をし、「将来、医療従事者を目指してもらえると嬉しい。」と感謝の気持ちを述べました。生徒達も「医療従事者の方々にたくさんの御礼の言葉をいただいた。」と喜びを述べていました。このポスターは現在も病院正面玄関に展示しています。



多くの企業、団体等から新型コロナウイルス関連の寄付をいただいております。ご支援いただきありがとうございます。

# 診療科紹介

## 救急科



教授 阪本雄一郎

最近10年の歩みと現状といたしましては2011年から佐賀広域消防局との連携によって医師同乗救急車事業を開始しております。この事業によって附属病院の敷地内に救急隊員に待機して頂き、必要時に医師・看護師とともに出動する体制が確立しております。病棟も2013年より南診療棟に移りECU24床とEICU6床を合わせた30床のセンターとなっております。2014年からは佐賀県ドクターヘリ事業の基地病院として現在は佐賀県全域から福岡県・長崎県とも相互運用を行っております。2015年からは九州で3番目の高度救命救急センターの認可を得ております。災害支援ではDMAT隊として2011年の東日本大震災や熊本地震・熊本豪雨に出動、

2017年にはAsia Pacific Alliance for Disasterと協定を結び佐賀空港に常駐した専用固定翼機等によって北海道地震・インドネシア地震・フィリピン台風・2019年19号台風・西日本豪雨等に出動し災害支援を行っております。また、新型コロナウイルス対策として佐賀県の連携・ご協力を頂き、現在ECU1階の外來手術室をCT併設のHybrid ERに改修を行っております。



# 寄附講座紹介

## 先進脳神経分子標的治療科学講座



教授 近藤 哲朗

令和2年4月1日付で先進脳神経分子標的治療科学講座を開設いたしました。高齢社会で急増するアルツハイマー病などの神経変性疾患や、手術をしても再発する悪性脳腫瘍などの深刻な中枢疾患に対し、疾患の責任分子を直接的に標的とする治療法や治療薬の開発が求められています。近年、有効な分子標的薬として、抗体医薬や高分子バイオ医薬が数多く開発され、これまでに肺がんや消化器がん、乳がん、血液のがんや関節リウマチなどに劇的な治療効果を発揮してきました。しかし、これらの画期的な効果が期待でき

る抗体医薬や高分子バイオ医薬でも、脳の疾患に対する分子標的治療は、まだ世界でもほとんど成功していません。脳は他の臓器と異なり、血液脳関門などの生体バリアに囲まれており、従来の方法では抗体医薬や高分子バイオ医薬などを安全かつ効果的に脳内に到達させることができないのが現状で、脳は分子標的治療の最後の難関のひとつと言われています。本講座では、新たな研究手法を用いて、脳のバリアを越える新しい分子標的治療の実現を目指しています。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

## 連携病院紹介

### 小城市民病院

院長

尾形 徹

〔病院の紹介〕 当院は小城市小城市にあり。昭和26年に国保直営診療所として開設、昭和34年に小城市立病院に改称、平成17年に小城市発足に伴い小城市民病院に改称となりました。病床数は99床（一般病床84床、地域包括ケア病床15床）です。今年度は新型コロナウイルス感染症入院対応に伴い病床編成を変えています。診療科（常勤）としては内科、外科、小児科、産婦人科、脳神経外科があり、専門外来（外勤）として循環器科、呼吸器科、肝臓内科、泌尿器科、リウマチ科、整形外科、糖尿病専門外来があります。在宅医療は訪問診療、訪問看護ステーションでの訪問看護を行っております。令和7年には多久市立病院と合併し新病院開設の予定です。

### 〔佐賀大学医学部附属病院との連携〕

佐賀大学医学部附属病院には日頃より当院での対応が困難な患者様を迅速に受け入れて頂いております。また専門外来はすべて佐賀大学医学部の各科の御協力によるもので、加えて消化器内科の先生方に内視鏡検査で大変お世話になっております。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。さらに大学との連携をより深めながら地域医療に貢献できるよう努力したいと考えております。今後ともご支援、ご協力のほどよろしくお願ひ申し上げます。



## 子宮頸がん予防医学講座



講師 橋口真理子  
教授 横山 正俊  
(併任)

7月1日より寄附講座として子宮頸がん予防医学講座を開設いたしました。日本の子宮頸がんの罹患率、死亡率は増加傾向にあり、特に若年者の子宮頸がんの罹患が問題となっています。また、日本は欧米に比べ子宮頸がん検診の受診率が低く、HPVワクチンも積極的勧奨の差し控えが続いたままです。佐賀県は子宮頸がんの死亡率が高く、その対策が急務であると考えています。子宮頸がんはそのほとんどの原因がHPV（ヒトパピローウイルス）の持続感染とされています。佐賀県では全国に先駆けて2011年よりHPV検査と子宮頸部の細胞診を同時に行うHPV併用検診を導入しました。このHPV併用検診により、細胞診単独検診

より精度の高い検診になることが報告されています。それから9年、子宮頸がん検診の受診率の上昇、より精度の高い検診を目指して様々な対策をしてきました。このHPV併用検診の効果と問題点を抽出し、その改善策を見出すことがこの講座の研究テーマの一つです。また、問題点を踏まえ、県や各自治体との連携をはかり、アルゴリズムの構築や運用法を確立することで精度管理の評価、検証することも目的としています。この講座での研究を通して今後の佐賀県および日本の子宮頸がん検診の方向性を提示し、将来的に子宮頸がんの罹患率、死亡率の減少につながればと考えています。どうぞよろしくお願ひいたします。

## 就任挨拶



肝疾患センター センター長  
高橋 宏和

本年度より肝疾患センター長を拝命しました平成14年佐賀大学医学部卒業の高橋宏和と申します。ご存じの通り佐賀県は19年連続肝がん粗死亡率ワースト1でありました。肝がんで亡くなる方を一人でも減らすことが出来るよう、本センターは平成24年1月に設立されました。これまでに厚生労働省、佐賀県といった行政機関、地域及び全国の医療機関や関係機関、多くの肝炎医療コーディネーターの方々、そして患者さんやそのご家族一人一人と手を取り合うことにより、文字通り佐賀県全体が一体となってB型・C型肝炎ウイルスの検査の受診と受診、受療の促進に取り組んでまいりました。これに加えて近年の目覚ましい治療薬の進歩が相まって、平成30年にワースト1を脱却し、令和元年にはワースト12位まで肝がん粗死亡率を低下させることが

できました。特にC型肝炎は「根絶」を目標としてもおかしくない段階となりました。一方で、肥満やメタボリック症候群による肝炎、肝硬変、肝がんが増加しており、世界的な問題となっております。NASH（ナッシュ・非アルコール性脂肪肝炎）と呼ばれるこの新たな肝炎は、全世界で治療薬の開発治験が進行しており、当院では世界でトップクラスの症例数を経験しております。また私が副診療科長を務める肝臓・糖尿病・内分泌内科と共同で、食事や運動などの生活習慣に対する指導を積極的に行っております。「肝臓学」の歴史の転換期です。次世代の肝疾患対策、診療、研究を牽引し、一人でも多くの患者さんにそれが還元できるように、素晴らしい仲間と共に精進して参ります。若輩ではありますが、ご指導頂ければ幸いです。

## 文化コーナー

### 作品（俳句・川柳）募集のお知らせ

本院広報委員会では、俳句・川柳を募集しています。優秀作品は令和3年3月発行の「病院ニュース」に掲載する予定ですので、皆様奮ってご応募ください。詳細は外来ロビーの掲示板及び本院ホームページをご覧ください。

〔応募締切〕 令和3年2月5日（金）  
〔応募・お問い合わせ〕 佐賀大学医学部総務課（研究・評価担当）  
TEL：0952-34-3354  
E-mail：khyouka@mail.admin.saga-u.ac.jp

